

△ 八的禮法

一八的を以て射子に依るるを
人より射する人の法を以て射
射をせよとて射るる又射るの由
く其儀を乃て禮を以て射るる
射るるを以て射るる八的射法
の要法の之を以て射るる法に
よるる射法也されど射るるに
よるる射法は射るる射法
の射るる射法也

一八的射は八人射八人志矢射即
合以て射るる射法也志矢射
八射射八的射を以て射るる
射るる射法也射るる射法
射るる射法也射るる射法



一 世傳の日記を網可射く

一時として射を人あつた折して八の
曲帯と射をせんの中半ととる

一 后らのも人志中半ととる

一 八の物とほしと立勢とを言はし

一 うちと重也的の中は時ハ矢取と

射るあつた換るる為言申之の及

沙汰るる

一 八の品とさけ針の糸本葉

葉房具取置法也半葉

葉ハ又介をもと一ととるさけ針

二 十とあつたさけ針の糸本葉

葉房具取置法也半葉

具がさけ針七ととる

一 八の葉也可射

一 射の物本葉法もさけ針小の
の時同初るるさけ針以下是

小の射は可射

一 可射のハ向本矢ハ矢取也ハ四角

也ハさつとハ半ととるさけ針

一可村より白木矢ハ矢武ハ四月
やまをといふ午のこす處ハ心ま
弓にさるとしつゆまむハ命ま
すなりハ女ハ一姓のてく矢武を村
よこあすなり

一村ハ多人の時ハかく命ハ例武を
時をさ場ハて別座ハ中ハ法まら
時侯のよとえハまゆハ針とさ
方と的ま方ハすハ一ハ權まハ村
二ハまハつとさハ的のまハらら
方ハ一ハつと返村ハまゆハ葉ま
葉とまとハ大後ハ大前ハ力ハ進
村ハまゆハ花房ハまとハまハ
大後ハ力ハ一ハつとら村ハまゆ
貝のまハまとまらまハ的のまハ
一ハ進ハ小勝ハつと村ハまゆハ
まゆハまとハ的のまハららまハ
一ハつと返村ハららハまゆハ
まゆハまとハ大前ハつと進ハ上
のまゆハまゆハまとまらハつと村
ハまゆハまとまとハ大前ハ大後ハ

のそとにありては、
ハ、
て、
色、
くの、
——

一、
少く、

一、
後、
日、
ハ、
金、

一、
て、
な、
下、

一、
よ、
二、

一 目的と場との関係

一 目的の達成

二 目的の達成

三 目的の達成

四 目的の達成

五 目的の達成

六 目的の達成

七 目的の達成

八 目的の達成

九 目的の達成

一〇 目的の達成

一一 目的の達成

一二 目的の達成

一三 目的の達成

一四 目的の達成

一五 目的の達成

一六 目的の達成

一七 目的の達成

一八 目的の達成

一九 目的の達成

二〇 目的の達成

なにかあるかよく見てみる

一 市場の形式となる市場の目的の市場

としご けいざいおぼやかしきあつたて

あつたてのあつたてのあつたてのあつたて

てあつたてのあつたてのあつたてのあつたて

あつたてのあつたてのあつたてのあつたて

あつたてのあつたてのあつたてのあつたて

あつたてのあつたてのあつたてのあつたて

あつたてのあつたてのあつたてのあつたて

あつたてのあつたてのあつたてのあつたて

あつたてのあつたてのあつたてのあつたて

あつたてのあつたてのあつたてのあつたて

あつたて

一 市場の形式となる市場の目的の市場

一 市場の形式となる市場の目的の市場

あつたてのあつたてのあつたてのあつたて

あつたてのあつたてのあつたてのあつたて

あつたてのあつたてのあつたてのあつたて

射



射



射



射



射



射



射



射



射
射
射



射
射
射
射
射
射
射
射
射
射

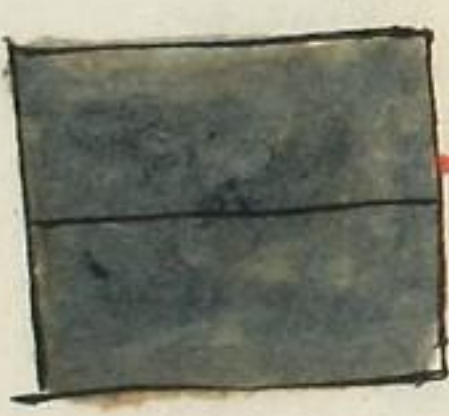


射



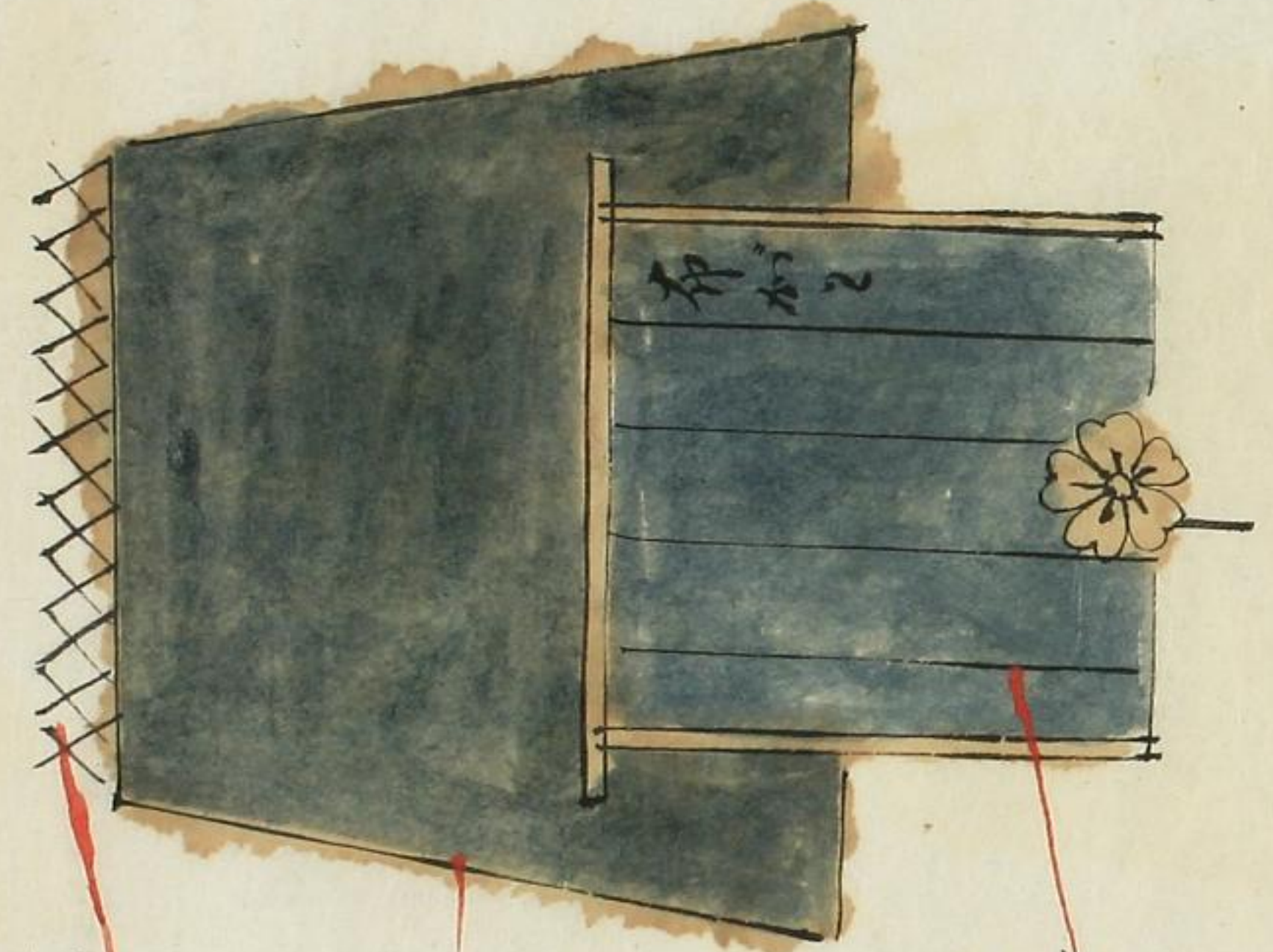
射
射
射
射

射



射

一如経書布グとを流るのちとて布皮

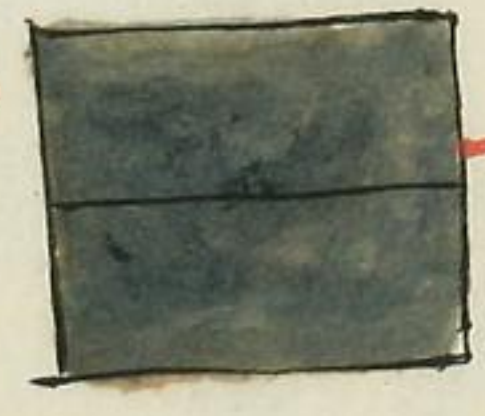


けせり串シ糸ハ

保帯のハ

布ハとハ深ハのハる
一杖ハむハり

矢ハのハ立ハ



矢ハ九ハ隊



今行ハのハ者ハのハ
一ハのハ者ハのハ
一ハのハ者ハのハ
一ハのハ者ハのハ



物ハのハ

一ハのハ者ハのハ
一ハのハ者ハのハ
一ハのハ者ハのハ
一ハのハ者ハのハ
一ハのハ者ハのハ

年号月日

一
●○○○○○○○七
一
○○●○○●○○●

一八的九すむとらさくし封るくさ

一ツ亮立かして封くけ九半一の八的

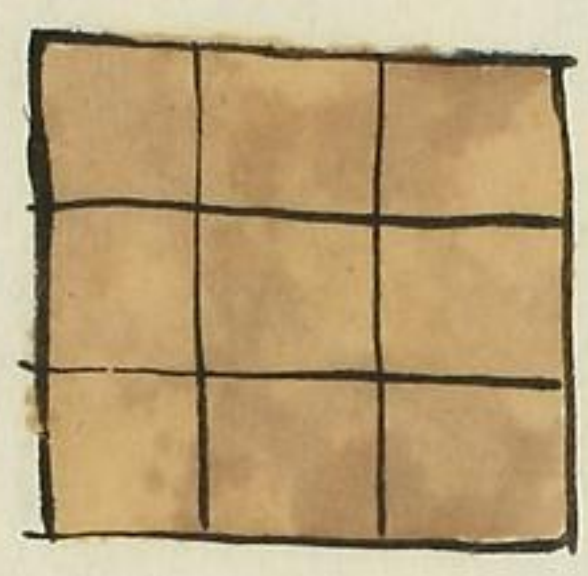
の品法術がくぬし封候下らるる

けしも一的と略しぬしこの候也

一三く九く自後とえもけ九半の候く

ぬしむいすのむまど九く切て半

一授てらるるしらるる



一右八的の時の去代のらるるはく

一八的を習してめんのし封く九半也

をとらみのらるるし其半ある

常の小的と一しうさふとららて

と封く封るしいら後の端の

ら封るぬし封るぬし封るぬし

小的の封るぬし封るぬし封るぬし

一右八的の時の夫代のふり海法く

一八的を習してめんのし村し九年の

とてらみのふらつこらう其申るを

常の小的とこらうを心とらうし

と村く村をこらう後の端海法

らうし村向ひ先くし村れてお申れ

小的と村よこらうけ時の曲節の

ふり海法例式小的の神祀おく可

村くむねのづらもせくふだ小條の

的て立村る夫も若の的夫とて村の

夫とて海くさうとて村のくら

とらうとて海くはこらう多少とて

但そとも海法の村の八人として有

こらうとて海くはこらうとて

海

一け八的を務負くし村く常の

憲的のこらうとて海くはこらう

代とて海くはこらうとて村の式

の八的ふらな夫代とて海くはこらう

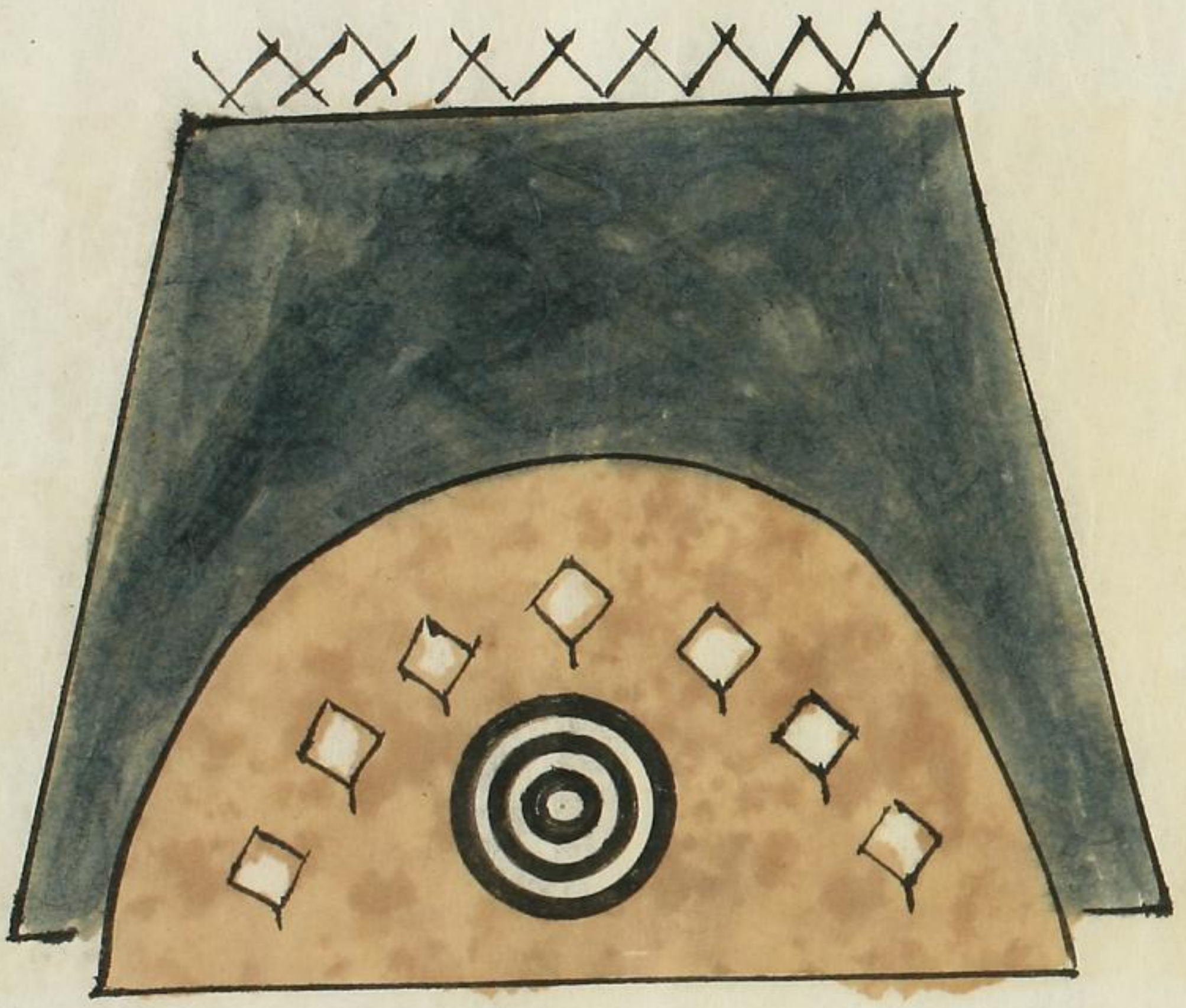
め海くは海の時の格ふる

一的の申外の申中の小的申の海

ウツヒの時の格ふる

一的の中外の交申のふゆの中は
不の格ふるを村す矢教はわ
流る村ははけさるよ不及園的の
ことく矢代と御て端といふ時
矢も一も左の園的のごとく終死
て村くさるれも終ひらるふゆ
ゆさでふのころらさるる換ゆ
申は部らこ後とすくこ後の
矢教の時のさるさるはさ流
左の格ふるかやひらるる意村
不矢教の多し村のて解教長

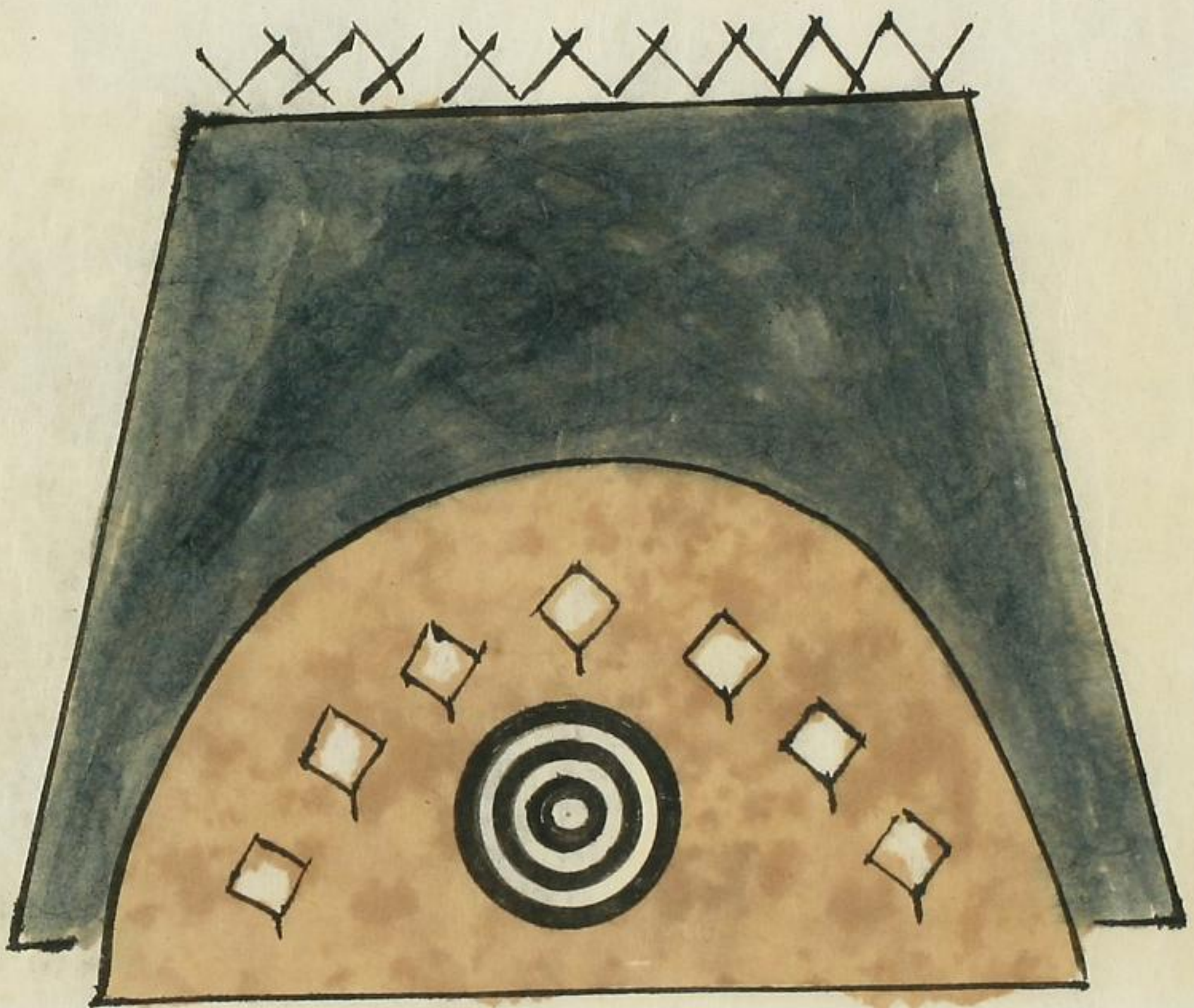
け時的て立伝



的下の

本久教の多村のくまの歴代

代時的に互に伝



的の下

右の的の流し... 不可同... 將軍... 家傳... 師傳... 可深...

以上或後...

右の... 的... 家傳

以上或後已个條

右以一等八的之項牙別之家傳
之能稱夏於末代忌味之子孫
著之為可存之具記聖也似全能
為親子兄弟村則不為之輩者
高不可傳受前人法以誠重之
志也如件

弘治二年

八月日

信豐

画

右有一卷八的之法武國家代
唯授之人之雖為秘書常規
心依石儀全洞續之軍征之制之
右他見此之之之河浦者也
仍如件

糟屋左近

武成

集

仍如評
各地是此云云
河浦者也

糟屋左近

武成
武

海野仁左衛門

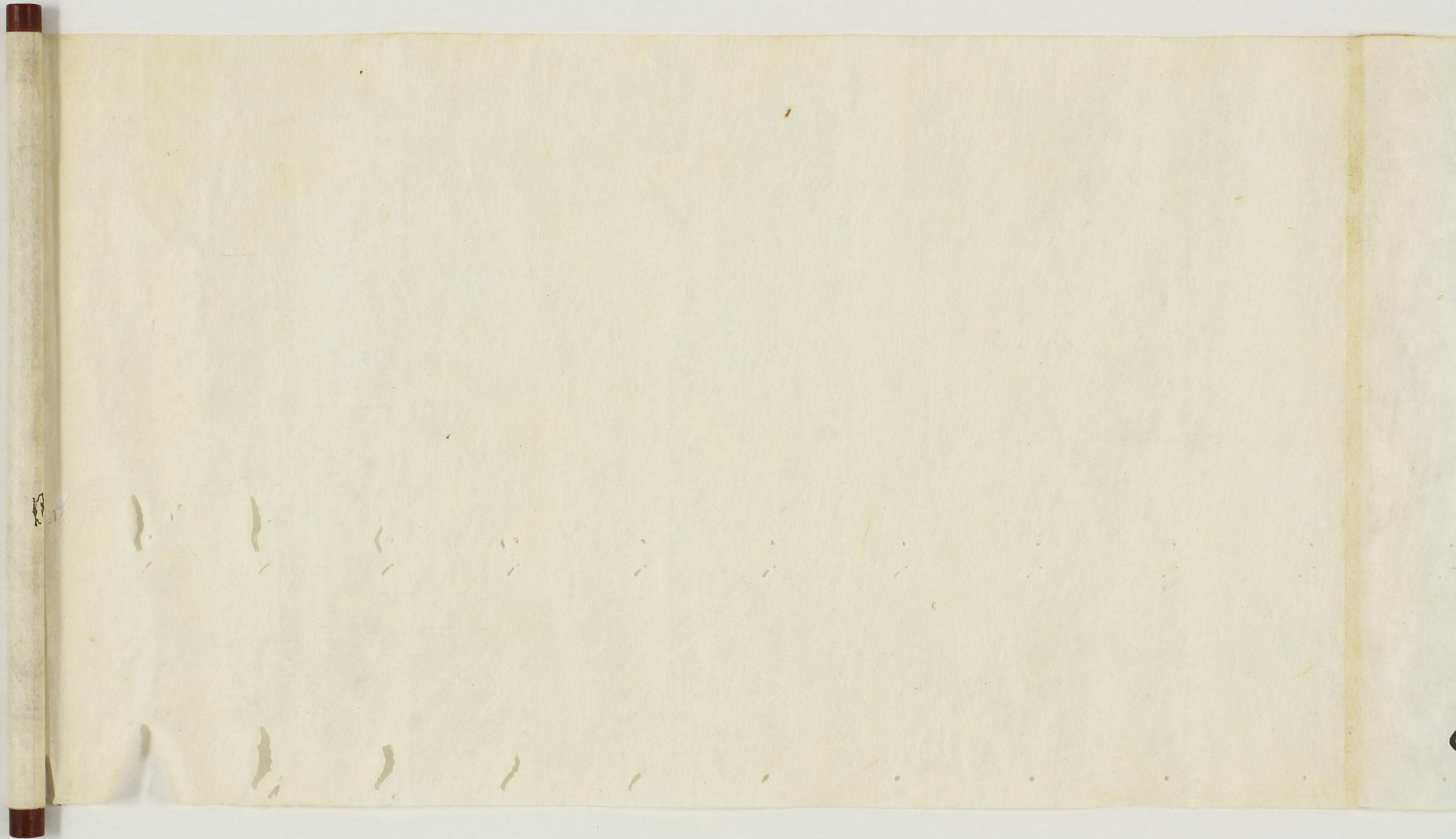
景元
五

久代藏右衛門

信秀
五

山村主鈴

喜時
五



the *Dei Gratia* & *Majestatis*
D. Edwardum in *regno* Anglie
in *honorabilibus* *magistris* *magistros*
in *honorabilibus* *magistris* *magistros*
in *honorabilibus* *magistris* *magistros*
in *honorabilibus* *magistris* *magistros*
in *honorabilibus* *magistris* *magistros*
in *honorabilibus* *magistris* *magistros*
in *honorabilibus* *magistris* *magistros*

八的
礼法

